



ウキゴリ

なぜ、漁獲量は減ったか - 8

ハゼ類 (2)



ヌマチチブ

「かわら版」No. 141で、ハゼ類の大幅な漁獲量の減少は、ハゼ類の中では大型となるウキゴリの減少と、ヌマチチブの漁獲サイズの小型化が直接の原因ではないかと推測しました。

ここではこのことについて、前号と同様に霞ヶ浦を例にして、さらに詳しく検討してみたいと思います。

図1は、ハゼ類の漁獲量の約90%前後を占めている、ウキゴリとヌマチチブの好漁期に当たる、昭和46~50年(1971~75)と、不漁期といえる昭和59~平成4年(1984~92)の、漁獲尾数を月別に示したものです。

どちらの魚種も漁獲される時期については大きな差異はみられていません。

しかし、量的には変化がみられ、ウキゴリでは漁獲尾数が全体的に減少しています。

特に、ウキゴリを多く漁獲する定置網漁業(張網)の、5~6月における減少が著しくなっており、ウキゴリ資源量の減少をうかがわせています。

一方、ヌマチチブについては、各月とも漁獲尾数が大幅に増加しており、資源量の増加を示唆しています。

図2は、年平均の漁獲体重の変化を示したものです。

ウキゴリの年平均漁獲体重は、以前とほぼ同じになっていますが、ヌマチチブについては以前の約2/5と、半分以下に低下しており、ヌマチチブの漁獲サイズは、極端に小型化していることを示しています。

これは図1に示したように、夏期に生まれ、まだ十分成長していないヌマチチブが、7~11月に多数漁獲されるようになったためではないかと推測されます。

ヌマチチブの漁獲尾数が大幅に増加(対好漁期比1.8倍)している割には、漁獲重量が伸びない(対好漁期比4/5)のも、このためではないかと思われます。

近ごろゴロが小さくなったとよく聞きますが、漁獲されるヌマチチブの小型化と、大型になるウキゴリの漁獲尾数が減少したことによるのではないかと考えています。

それではなぜウキゴリが減少し、ヌマチチブも大きなものが、漁獲されなくなったのでしょうか。

これについてははまだ明らかではありませんが、ウキゴリはヌマチチブとは異なり、沿岸帯を生活の場としていることから、藻場の減少が大きく影響しているのではないかと考えられます。

また、生まれて間もない時期の、餌として重要なイサザアミの減少も一つの要因として考えられます。

一方、ヌマチチブの漁獲サイズの小型化は、近年のアオコからフォルミedium、オシラトリアへの、植物プランクトンの遷移による、生育期における餌料環境の変化と、生育や隠れ場としての藻場の減少が、大きく影響しているのではないかと推測しています。

今後の課題として、引き続き検討する必要があります。

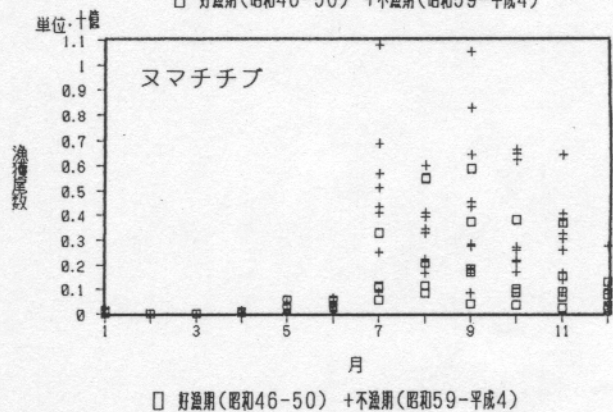
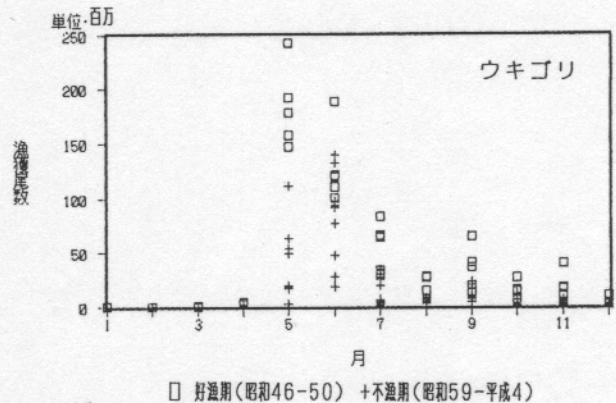


図1 好漁期、不漁期におけるハゼ類の月別漁獲尾数

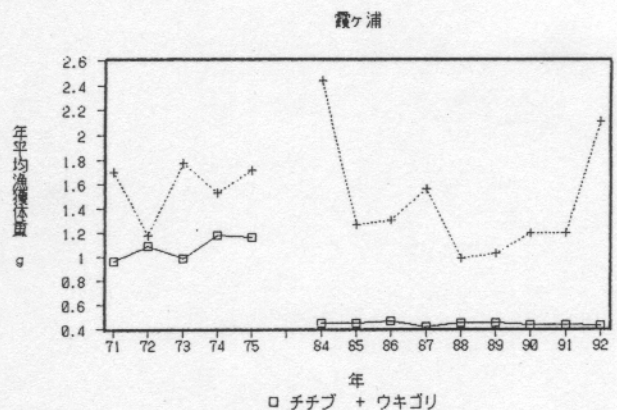


図2 年平均漁獲体重の推移

